

1. 海は広いな大きいな - 海王丸航海記 -

帆船海王丸は海技教育財団が所有し、独立行政法人航海訓練所にリースする形を取っており、一般社会人も研修生として体験乗船させ、もって海事思想の普及に資するという目的があるとのことで、それも満70歳未満の者までで、小生は後3ヶ月しかありませんので、強く希望して乗船することができました。そのきっかけは団員の植木氏(B2)が遠洋航海でサンフランシスコまで行って来た事を伺い、子供の時から憧れをなんとしても実現したいと思い応募しました。

船には東京商船大学(現東京海洋大学)、商船高専の学生達をはじめとする実習生約90名と共に、我々19名は研修生と呼ばれその一員として去る2月11日~16日、鹿児島港~那覇港間を帆船海王丸に乗船体験することができました。

さて、初日午前9時出航天候の悪化が予想されるので、志布志湾で翌日中投錨して仮泊、その翌日帆走に掛かるも風はあまり無く、4~5ノット、



その晩から強風の天候で、船は8~10ノットで帆走し、大揺れのため甲板に出ることは禁止され、その晩の掃除当番ではさすがに冷や汗が出ました。しかし、全航海中に船酔いはせずに、3食モリモリ食べることが出来ました。

船での楽しみはなんとと言っても食事、研修生の世話をしてくれた方のお一人が元司厨長の方でこの船では2週間3食とも同じものを出さないことになっていてのことでした。小生はいつもとても腹が減り、朝から大盛りの丼飯を食べるので驚かれました。



荒天時にはデッキに出ることは禁止され、風呂場にはロープが張られ、それに捉まってお湯が大きく揺れる中入浴し、洗面器がすべるのを捕まえながら洗います。学生は廊下を斜めに歩いているようにも見え、夜は2段ベッドの下段で、揺れるときはさながらマッサージ機の上で寝ている気分。それでも課業に追われた疲れからか、ぐっすり眠ることができました。なお、デッキに出るときは風下のドアしか開きません。

航海中は訓練として、晴天時は間の甲板での口

ープ引き、バウスピリットやメインマストへの登り訓練、掃除も毎日分担が変わり、タンツ(椰子ガラでのデッキ掃除)、便所、風呂場、第一教室(食堂)、第二教室、前部廊下、居室掃除当番を済ませ、学生と共に夜8時過ぎに巡検を受けてようやく1日が終わります。



朝6時半の後部甲板での点呼では5分前の精神で集合し、課業はじめから収めまで、コンパスデッキでの出入港の見学、機関室、無線室での講座はじめ航海に関する座学、ロープワークや諸訓練の課業に追われました。

船是那覇港手前で機走に掛かり、沖で仮泊し翌日入港しました。退船式では航海科、機関科の専任教官はじめ士官、学生が整列する中、甲斐船長より修了書を授与されました。

乗船式でも対面し挨拶した学生達は皆礼儀正しく好青年が揃っていて、別れに際しては並んでアーチを作ってくれ、帽振れで見送ってくれました。

航海体験は何もかも目新しく、水平線のかなたに日が沈む様子に新鮮な感動を覚え、船内では厳正な秩序が守られ、それは我々研修生にも厳しく求められました。小生にとっては最初で最後の帆船航海となりましたが、何時までも忘れられない思い出となりました。これもシーシャンティが取り持つ縁であり、皆様と共に我が合唱団の一層の発展を期したいと思った次第です。(T2・本間)

2. 柳原良平個展

小雨の5月12日、柳原良平さんに「演奏曲集」をお届けすることも兼ねて、個展に出かけた。今回は残念ながらお会いできなかったが、会場である



清く(帆船日本丸) F100号 油彩

小澤 章 館長に色々とお話しを伺うことができた。

この小澤氏、学生時代には混声合唱をやられた由、しかし日本丸合唱団にはこれまで縁がなかったとのこと。ここぞとばかり入団勧誘をしましたが、まずは定演にご招待しました。

さて上の油彩画、日本丸カッコいいです。大きいです(1.6m x 1.3m)。欲しいですが手が出ません。飾る壁もありません。(B2・山路)